

1. 略歴

1989年3月	大阪大学文学部哲学科インド哲学専攻卒業
1991年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士前期課程修了
1996年3月	大阪大学大学院文学研究科哲学哲学史専攻博士後期課程単位取得退学
1996年9月	米国ハーヴァード大学大学院サンスクリット・インド学科留学
2002年6月	博士 (Ph.D.) 学位取得 (ハーヴァード大学)
2009年10月	京都大学人文科学研究所助教
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2021年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

ヴェーダ学、インド学

b 研究課題

古代インドの家庭儀礼と社会文化史

c 概要と自己評価

紀元前インドを専門とし、ヴェーダ宗教儀礼からみる古代インドの社会と文化を研究テーマとしている。2020年度には、過去20年にわたって研究してきた、ヴェーダ聖典学習者の入門儀礼に関する単著を上梓した。インド最古のテキストから出発して紀元前の文献を通時的にたどりつつ、古代インドの入門儀礼の成立史、儀軌の変遷と詳細、「入門」という行為が内包する観念と機能を、総合的に論じたものである。ヴェーダの宗教の入門儀礼に加え、初期仏教の受戒儀礼の源流をも探った。2021年度は、ヴェーダ聖典学習者をさす単語の初期仏典における用法と、ヴェーダ学習システムの規定の研究を行った。

d 主要業績

(1) 著書

【単著】梶原三恵子、『古代インドの入門儀礼』、法藏館、2021.2

【共編著】斎藤明、丸井浩、下田正弘、蓑輪頭量、梶原三恵子、高橋晃一、加藤隆宏編、『仏典解題事典 第三版』、春秋社、2020.12

(2) 論文

「パーリ語初期仏教経典における brahmacarin- の語について」、『東洋文化研究所紀要』181: 261-278 頁、2022.3

“The Observances or vedavratas for Learning of the Veda.” *Studies in Indian Philosophy and Buddhism* 30: 1-25、2022.3

(3) その他

「サンスクリット語と文字」、東京大学アジア研究図書館ニューズレター 第4号、5-7 頁、2021.7

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、インド思想史学会、理事、2016.4～

国内、日本印度学仏教学会、理事、2017.9～

国内、日本南アジア学会、会員

国内、東方学会、会員

国際、American Oriental Society, Member

(2) 行政

日本学術会議 連携会員、2017.10～